

私が、茶髪で誰かに迷惑をかけた～？どうして茶髪がいけないの！？

夏休みが終わり、最初の頭髪服装検査がありました。「茶髪が多くなったな～」と先生方は言っていました。

そこで、今回は、茶髪について考えてみます。

まず、「必要性がありますか。」ということです。明るいイメージをつくりたいというのであれば、とりあえず他の方法をすすめます。わざわざ加工する必要があるのですか。人間はより自然に近いほうがよいのではないですか。

以前、「茶髪は芸能人もみんなしてるし、社会的に認められている」などと、間違った意識のマスコミもありました。しかし、大分県内の公立高校では認めていません。また、他に認めていない人もいます。

なぜ認めていないのでしょうか？

それは、就職や進学に関しても不利になることもあるからです。不利になるということは、認められていないからです。認められていないということはそれが普通ではない、日常ではない、自然ではないということです。

茶髪を認めてない人がいるということは、茶髪の生徒が目立つ学校は、残念ながらきちんとした学校には見られません。もちろん茶髪にしていない生徒もたくさんいるのですが、評価は下がります。

さらに、問題行動をおこしている生徒がたまたま茶髪であったりすると、茶髪＝非行・不良という見られ方をするものです。町で5人の高校生が「タバコ」を吸っていて、そのうちの2人が茶髪であったとしても、町の人はいこううでしょう。「〇〇高校の茶髪の生徒がタバコを吸っていた」

(※「タバコ」は、「シンナー」「万引きを」「暴行」など様々な言葉に置き換えてください)

親が近所の評判を気にするのは当たり前のことです。同じように学校が地域からの信頼性を考えるのも当たり前のことです。

地域から応援されなくなった学校に通う生徒は、就職・進学・実習・講演などさまざまな場面で不利益を被る可能性が強まります。また、その学校への進学率への影響も否定できません。存続も危ぶまれます。地域から信頼のない学校へ、子どもを好んで通わせたいと思う親がどれだけいるか考えてみてください。

君は、これでも誰にも迷惑をかけていないと言い切れますか？